

森林整備の理念と概要

Green Maple Bounty

考え方・理念

- ・森林本来の姿から学び、自然の力を活かした森づくりを行い、そこから得られる恵みが、人間にとっての最大の付加価値となるよう追求し、その実現に向けて行動する。
- ・自らが喜び、誇りを持ち、楽しく素直に充実した仕事することが持続可能なサービス向上に資すると考える。
- ・環境、自分、会社、関係者、業界、人間社会のすべてがよくなる仕事をする。

現在の林業の課題と解決策

皆伐を主とした生産を行い、植林などの育林を実施し、50年以上先の伐期まで、主な生産は行われません。また、伐採の利益と育林コストの関係による経済的な理由から間伐などの手入れが行われていない山林が増えており、水源涵養機能は失われ、そもそも生物多様性は考慮せず、本来の森林としての機能は失われています。その為、以下のような考え方に基づき施業を行い、山林の価値と施業効率の最大化を目指す。

- ・森林の多面的機能を発揮させつつ、持続可能な生産性のある仕組みを構築し、改善する。
- ・択伐として「人が欲するものを選んで切る」が、保持林業の「自然環境に必要なものを残す」ことを前提とする。

持続可能な生産性のある仕組み

現状、林業の衰退の原因として、未乾燥による材質の低品質と、これを前提とした、低品質材の大量生産による価格低迷が問題であり、これらを踏まえ、以下の取り組みを行い、持続可能な生産性を達成する。

- ・需要を意識し、多面的機能を維持するのに必要な資源を残しながら、必要なもののみを伐採し、安定的に市場に提供する。
→資源の詳細な把握による需要への迅速な対応、常時生産可能体制
- ・既存の流通に縛られず、生産業者が必要とする形で直接提供するなどし、流通の効率化を目指す。
- ・製材、乾燥まで行い、品質の向上を目指す。
- ・SDGsなどの新しい価値観による多面的機能の付加価値化、また、森林認証などの制度を利用し、付加価値を高める
- ・択伐、天然更新により育林作業の大幅な削減などによる生産面での効率化

資源の詳細な把握

人工林、天然林、樹種にかかわらず、森林資源のデータ化を行い、利用者にやさしいインターフェースにて情報提供する

- ・ GIS を利用し、森林資源データベースの作成
- ・ 資源データから EC サイトなどを利用し、生産業者向けのみならず、DIY 向けなど一般向けにも提供
- ・ 多面的機能に必要な立木などの環境資源としての管理と、生産資源としての管理を同時に行う。
- ・ 一般住宅等の庭木の委託販売も検討

資源の詳細な把握

人工林、天然林など山林の立地条件などの属性別に多面的機能の優先順位を設定し、目標の山林状態の定義とそれに向けての基本的な方針を決定する

アクセスの良さ、動物との緩衝地帯として重要な立地は重要な条件なので、これによる抽象度を上位として区分し、基本的な施業方針を考える

- ①里山人工林(基本的には針葉樹単純林を想定する)
- ②里山天然林(人口広葉樹林も含める)
- ③アクセス不良な山林

里山人工林(基本的には針葉樹単純林を想定する)

- ・ 択伐を行いつつ、基本は天然更新により、広葉樹混交林に誘導する。
適度な択伐、枝葉などの処理を行い、見通しの良い環境を作り、動物の緩衝地帯とする。
→草原性の動植物にとって住みやすい環境となるが、これを利用して
緩衝地帯としての機能を期待。
- ・ 必要があれば、有用樹種を選び、植林を実施する。
- ・ 不足があれば、路網を整備する。

里山天然林(人口広葉樹林も含める)

- ・ 基本的には里山林①と同様の作業を行い、樹種が違うが、同じような環境を目指す。針葉樹ではなく、広葉樹として有用なものを優先的に植林し、生産する。
- ・ 多種の広葉樹が混交するように可能な限り天然更新する。